

水環境館いきものトピック Vol.9

みずべ

どうぐへん

水辺であそぼうシリーズ！～道具編①～

3月が去り、だんだんと暖かい季節になりました。みなさんも、水辺が恋しくなってきたのではないのでしょうか？今回は、水辺で生き物探しをするときにみなさんが使うであろう道具をテーマに進めていきます。

まず紹介するのは網です。網は目的によっていろんな種類があり使い方も異なりますが、一般的な水遊びで使うのは、柄(持つところ)がある「たも網」と呼ばれるものです。網の部分が丸いもの(虫取り網に多い)と、半円状のものがありますが、魚を採るには半円状のものの方が使いやすいです。



【たも網(大)】

柄が伸び縮みするタイプ。深い場所でも使えるが、砂が挟まると縮まなくなる。基本的にはこの一本で十分。柄と網のつなぎ目が丈夫なものほど使いやすい。



【たも網(小)】

網の縁が丈夫だと岩がごつごつした場所でも使いやすい。網の幅(間口)や柄の長さ、目の細かさはそれぞれなので、自分の使いやすいものを探すと良い。浅い水場で使用する。



【サデ網】

柄が付いてない大きめの網。店にはあまりないため、購入しづらい。大きいためたくさん魚が取れるように思えるが、小回りが利かないので場所によっては使いづらい。

また、バケツにもそれぞれの良さがあります。基本的に重視するのは大きさと、採集しながら移動する距離や、持ち帰る魚の量、種類などによって使い分けます。フィールドだと小さい方が便利ですが、バケツが小さいと小魚が食べられたり、水温が上昇しやすいので、魚が全滅してしまうことがあります。ただし、いきなりすべての道具をそろえる



【バケツ】

蓋がある方が、飛び出しや転倒したときの脱走を防げる。大きさも様々で、使いやすいものを見つられる。丸形と角形があり、どちらも使えるが、バケツから魚を掬うとき、丸形だと隅に追い込めず、壁沿いを泳ぎ回るため角形の方が便利。

のではなく、最初はお持ちの道具から始めてみることをおすすめします。まずは身近な水辺と触れ合うことが大切です。やがて少しずつハマっていくと、気が付いた時には家の中が採集道具だらけになっていることでしょう。

また、採集の時は、生き物が住んでいる場所をむやみに踏み荒らさないように気を付けることも大切です。ある程度、魚を捕まえるのが上手になれば狙った魚を捕れるようになりますが、それまでは、出来るだけ植物や岩をグチャグチャ

にしないように気を付けてみてください。網を持たずに観察するだけでもいろんな発見がありますよ。

近年は「危ないから」や「希少な生き物がいるから」といった理由で、水辺に近づきづらい場所が増えています。やがて生き物を身近に感じる事が無くなれば、生き物に配慮されていない河川工事や埋め立てられる干潟を見ても、無関心で終わってしまいます。たとえ生き物を好きになったり、興味まではいかなくても、関心があれば救える命があるかもしれません。みなさんが住んでいる家の近くでも、足元に目を向ければ、いろんな生き物が暮らしています。

これから生き物が活動的になる季節です。みなさんもぜひ、生き物探しに出かけてみてください。

